

「市長と語るまちづくり懇談会」を開催しました

市政について、市民の皆さんと情報共有を図るとともに、いただいたご意見をまちづくりに反映することを目的として、4月16日から6月11日までの間、市内9か所でまちづくり懇談会を開催し、延べ176人の方々に参加いただきました。懇談会では、冒頭、市長が市政運営の課題や市政の現状などを述べた後、市から今年度の主な施策や行財政改革の取り組みなどについて説明を行いました。また、市政全般にわたり市民の皆さんとの意見交換を行いました。意見交換での主な質問・意見（網かけ部分）と、それに対する市の回答は次のとおりです。

○市長挨拶（要旨）

昨年2月に市長に就任し1年が経過しましたが、今後も市民の皆さんが信頼の持てる安定した市政運営に努めていくことを念頭におき、特に今年を「改革と成長の年」と位置付け、さまざまな改革に挑戦しながら本市の伸展・成長につなげていきたいと考えています。本市は今、人口の減少と少子高齢社会が進んでおり、今後、しっかりと市全体で人口の抑制に努めていかなければいけないと考えており、少子化対策については、市としても雇用対策を進めながら、若者が一人でも多く芦別に就職していただき、定住につなげていく取り組みや、子ども子育て支援対策が必要であると考えています。

今年度の一般会計予算額は108億5千万円で、そのうち市の税金が14億5千万円と全体の13%程度になっており、地方交付税や借入金によりその差額を埋めているのが実態であるため、しっかりと収入や財源を有効に活用しながら、効果的な財政運営を図っていかねばいけないことを市民の皆様にお伝えし、そのうえで市民の皆様から求められていること、さらには地域として進めていかねばならないことなどを把握させていただきたいと思っています。

◎合宿事業について

合宿事業について、市内では宿泊施設が減っているため、多くの方が他市で宿泊している現状であるが、今後、市として宿泊施設を整備する予定はないのか。

【回答】合宿事業については、現在、約90人の宿泊定員がある宿泊交流センターとスターライトホテルで対応していますが、それ以上の大規模な合宿は、他市の宿泊施設を利用していただいています。このため、今後、大規模な合宿に対応できるよう、宿泊交流センターの一部を改修して、50〜60人程度の宿泊定員を増やすよう検討しています。

◎中学校の統合について

啓成中学校では生徒数の減少により部活動が行えないと聞いているが、中学校の統合について構想があれば聞きたい。

【回答】中学校の統合時期については、現在のところは想定していません。

まちづくり懇談会意見交換会の内容は、市公式ホームページにも掲載しています。
●問い合わせ まちづくり推進係

学校の統合は、地域の皆さんにおいても大きな問題であると思いますが、まずは教育の主人公である子どもたちにとって適切で良好な教育環境を整えるという視点から考える必要がありますので、今後の状況をしっかりと見極めながら検討を行い、その際に地域の皆さんからもご意見をいただきながら、しかるべき方向性を定めていきたいと考えています。

◎木質バイオマスの取り組みについて

4年前にスターライトホテルに木質チップボイラーが導入されたが、次の取り組みが進んでおらず、今後の計画について聞きたい。

【回答】これまでに次の導入候補施設として、市立芦別病院と保健福祉施設すばるなどの施設群を検討しましたが、両施設とも直ちにボイラーを入れ替える状況にないため、今後、コスト試算による採算性などを調査しながら、将来的な導入の可能性を検討していきたいと考えています。

◎地域公共交通について

今年4月から北海道中央バスの旭芦線が減便となり、病院へ行くための交通手段が少なくなっている。高齢のため運転免許証を返納している方も多く、自家用車で行くこともできない状況なので、乗り合いタクシーや、キラキラバスの運行も含めて検討してほしい。

【回答】 この路線は、北海道中央バ

◎国道452号未開通部分について

旭川空港へつながる国道452号の工事の現在の進捗状況について聞きたい。

【回答】 現在、整備区間が地滑り地帯であるため180本の杭打ち工事が主に行われており、今後、地滑りが発生していないことが確認できれば、トンネル2か所と5橋の工事に進めると聞いています。

なお、これまでに近隣の市町と連携し、本市が会長市となっている国道452号建設促進期成会をはじめ、市議会、商工会議所との合同による国道内選出国會議員への要望活動を実施

スに對し本市、旭川市、深川市の3市が赤字相当分を補てんして運行しており、同社との協議を行う中で、これ以上の赤字を出さないため2便を減便したものです。同社からは、当初、最終便の減便が提案されましたが、旭川市への通院や通学などを考慮し、日中の時間帯の便を減便しています。なお、乗り合いタクシーやキラキラバスの運行については、地域からの声を踏まえて、今後、検討していきたいと考えています。

しており、今後も早期開通に向け継続して活動を展開していきます。

◎観光物産センターについて

道の駅の観光物産センターに市外からの来客を案内したが、高齢の方であったため2階のレストランまで階段を上ることができず、食事をしないで帰ってきたことがある。今後も高齢者が多くなると思われるので、施設内にエレベーターをつけて利用しやすい施設にしてほしい。

【回答】 車椅子対応の最小のエレベーターを設置した場合でも8千万円程度の工事費が必要であり、現在のと

ころ、設置するための財源確保が難しいため、設置を見送っていますので、ご理解願います。

◎空き家対策について

今年の冬は雪が多く倒壊した家があり、また、壊れかけている空き家などはとても危険な状態であることから、市で対応ができないか。

【回答】 空き家対策については市の

条例に基づき対応しており、危険な家屋がある場合には、所有者に対し、助言、勧告、指導ができることになっています。また、所有者が明らかでない場合と不明の場合ではその対応が異なりますが、基本的には所有者の責任で処理することになっており、早急な対応が必要な場合には市において解体・処理を行い、その後には所有者に対してその費用を請求するなどの対応を図っています。

◎行財政改革について

行財政改革について、総人件費の抑制及び定員管理の適正化の推進と補助金交付金の見直しを今後、具体的にどのように取り組んでいくのかについて聞きたい。

【回答】 総人件費の抑制と定員管理の適正化については、現在、約240人いる市職員数を今後、民間委託が可能な事務事業を委託することで職員数を減らしていきたいと考えています。

また、補助金交付金の見直しについては、平成30年度の補助金交付金の総額が約11億3千万円となっていますので、今後、1件ごとにその見直しを行い、総額を抑制していく考えです。

◎市立芦別病院について

現在の医師不足の中で、将来的に経営を継続できるのか心配であり、現在の診療体制を維持するのが難しいと思う。今後は内科を残し、他の診療科目は滝川市などの病院で受診する体制をとり、身の丈にあった病院経営により病院を維持すべきである。

【回答】 現時点で市立芦別病院の診療体制規模を縮小すると利用者が不便となり、滝川市など他市の病院においても本市と同様に医師不足により余裕がない状況ですので、今後、病床数は減らしていく考えですが、市民の医療を守るため、医師確保により診療体制を継続していきたいと考えています。